



第36号  
 発行人  
 青少年育成那珂市民会議  
 会長 関 守



中央公民館 (R 4. 1 1. 2 0)

のびのび親子教室「スライムを作ろう」

なりたい自分

わがす学園那珂市立荻谷小学校六年 中嶋 彩夏  
 中学校生活が始まるうとして、今、なりたい自分について考えてみました。きちんと計画を立てて、今まで以上に勉強を頑張る、新しく始まる部活動も一生けん命取り組んでいきたいです。また、私は困っている人に手を差し伸べることが出来る人になりたいです。自分の悩みを誰にも話せず、一人で我慢して辛い思いをしている人の力になりたい、そう思っています。

中学生になるという自覚を持ち、なりたい自分に少しでも近づけるように、そしてみんなが笑顔で学校生活を送れるように、努力していきたいです。

将来に向けて

白鳥学園那珂市立瓜連小学校六年 大澤 夏蓮

私には尊敬する人がいます。それは、母です。私の母は看護師として病院で働いています。いつも人のために手助け、サポートを行う姿はとてまかつこよく、私も将来は母のように医療関係の仕事につきたいと思っています。また、どの職業につくかまでは決まっていませんが、医療に関わる職業は医者や看護師、介護士、薬剤師などたくさんあるので、これからの生活の中で自分に合った道を探していきたいと思っています。そして、やりたいことが決まったときに役に立つよう、勉強など今できることをがんばりたいと思います。

青少年健全育成のまち宣言

- 1 市民の英知を結集し、みんなで積極的に青少年を育成しよう。
- 2 よい環境をつくり、心豊かでたくましい青少年を育成しよう。
- 3 自立の心を養い、連帯性や社会性に富む青少年を育成しよう。



**「親が変われば、子どもも変わる」運動**  
**那珂市推進大会**

令和4年10月29日(土)  
 於 市総合センターらぼーる

青少年育成那珂市民会議では、次代を担う青少年が、心身共に健康で人間性豊かに成長することを願い、保・幼・小・中・高、各世代の子をもつ保護者による子育て体験発表と、子育てに関する講演を毎年開催しています。

今年度は、コロナ禍のため講演会は行わず、ばら野学園の小中学校・水戸農業高校の保護者代表による体験発表のみを行いました。ここに「子育て体験文」を掲載しますので、皆様の子育てや、より明るい家庭づくりのための参考にしていただければ幸いです。

**我が家の暗号「やとすとふ」**

ばら野学園 那珂市立菅谷西小学校 保護者

平石 美香

私の家族は、小学校4年生になる双子の娘と、小学校1年生になる息子と、主人と私の5人家族です。

小学校4年生になる双子の姉の名前は「絢香」。「三日月」という歌が大好きな私が決めました。同じく双子の妹の名前は「明日香」。

1,844グラムで少し小さかったため、1か月間病院に入院していました。とても心配をした子でした。「明日を自分で切り開けるように」という思いで名付けました。

最後の息子ですが、顔を見てから名付けたい。と主人が言うので任せました。産後、顔を見た主人に名前が決まったか聞いてみると「大きな耳だから福耳の福」と言いました。なるほど、良い名前だねと賛成しました。

退院して帰ってくると、神棚に名前が貼ってありました。「笑う門には福来たる」だから「福」。大きな耳

はどこに行ったのでしょうか。

ここまで、359字くらい書きました。題名の暗号に近づいてきましたよ。我が家の暗号「やとすとふ」名前の説明からピンときた人は、天才です。

ひらがなにしてみてください。「あやか」の「や」、「あすか」の「す」、「ふく」の「ふ」、「やとすとふ」になります。そうです、暗号が解けましたね。では、これから暗号がどのように使われているのか、検証していきますよ。

まずは、「おにぎり」。それぞれ好みが違うので暗号を書きます。あやか「しゃけ」、あすかは「めんたいこ」、ふくは、「うめ」。ラップに包んで「や」と「す」と「ふ」。ハンバーグやコロッケを作っても、食べる量が違うので、仕上げにソースで、「やとすとふ」。大好きなホットケーキにもチョコのソースで「やとすとふ」と書いています。もちろん飲み残したペットボトルのお茶にも「やとすとふ」。

先日、上靴を新しくしたのですが、そこにも平石(す)と書いてしまいました。友達が不思議に思ったのか、「どうして平石(す)って書いてあるの?」と聞いてきたそうです。本人

は「あすかの『す』だから」と説明すると、納得していたそうです。

学校の先生にも気付かれず、静かに使用している暗号、どこまで使えるのか謎ですが、もうしばらくは使えないことでしょうか。他の人には分からない我が家の暗号「やとすとふ」の話でした。

話は変わります。私が初めて子どもを授かったのが39歳の年でした。妊活15年。一度は諦めていました。再度始めた妊活で、病院の先生から「原因を調べている時間は無いから、どんどん進めるね」と言われました。1年2か月後、双子の妊娠ができました。

初めて親になり分かった事があります。「私は主役ではなくったんだ」という事です。新しく産まれてきた子のサポート役になったんだ、と感じたからです。

ご飯を作り食べさせる事。風邪をひいたら病院へ連れていく事。学校での子供を聞き、一緒に考えたり悩んだり、時には励ましていく事。三人それぞれの性格がありますので、簡単ではありませんが、父親や祖父母にも協力してもらいながら解決しています。

大きくなったなら何になりたいの?と聞いてみました。

長女の絢香が言いました。「ママみたいな保育士さんになって、小さな子どもたちと関わるお仕事がしたいな」。それならピアノを頑張つてやってみよう、と4月からピアノを習い始めました。「大丈夫、あやかならきつとやさしい保育士さんになれるよ」と言いました。

次女の明日香が言いました。「オレは柔道で誰にも負けない強い女になる」。今年から柔道を始めたあすかにも「あすかならできるよ、頑張つてね、みんなで応援に行くからね」と言いました。

3番目の息子福は、「僕は髪の毛をチョコチョコする人になりたいな。」「すごいね福ちゃん、福ならできるよう、ママの髪の毛もチョコチョコしてね」と言うと、「ママが生きてたらね」と言われました。私が他のママよりも少し年が上だという事が分かっているのでしょうか。

この様に、子どもたちがそれぞれの夢を持ち頑張つていけるよう、今後にも全力でサポートをしてあげたいと思います。

## 子育ての正解

ばら野学園那珂市立五台小学校 保護者

横山京子

私には中学生3年生の娘と小学生6年生の息子がいて、私たち夫婦は自営業で飲食店を営んでいます。共働きが当たり前の世の中で、7割の女性が出産を機に仕事を退職していますが、その理由のほとんどが「家事、育児に専念するため」であるのに対して、職場で両立制度があつても仕事と子育てとの両立の難しさや、退職を推奨されるなどの話もよく耳にします。しかし自営業の場合は早期復帰ができ、時間的配分も夫婦主導で行うことができたので、子育てをするうえにも融通が利く環境でした。職場のパートナーさんからの協力やアドバイス。お客様からの理解も多く、子どもが小さいときは職場に連れて行くことができ、こんな恵まれた環境であつたものの、いざ仕事に子育てにという問題点も多々ありました。

子どもが小さい頃は職場に連れて

行き、子どもを背負つて毎日仕事にりましたが、自営といえども従業員さんを抱えているので、簡単に休むことができませんでした。その中でも、子どもが発熱して風邪を引いても子どもを職場に連れて行って、個室で寝かしながら仕事をし、ぐずつてもすぐに子どものところには行けず、おむつの交換やミルクを上げるときでも、そのまま泣かせっぱなしになりました。仕事とはいえ自分たちの子育ては間違つていないのかと葛藤する時期がありました。また、従業員さんやお客様からご理解をいただいていたと思うのですが、あるお客様からは子どもに対して暴言を吐かれてしまい、主人とお客様とで口論になったことがあります。自分たちのすべてが、正しいとは思っていませんが、職場に連れて行き子育てをすることに葛藤がある中で私は非常に悲しくなり、仕事を変えるべきか悩むこともありました。そして、普段は子どもとの時間が共有できた半面、親戚に協力してもらい、子どもたちを遊びに連れて行ってもらう事はあつたものの、家族で出かける機会がなかなか作れませんでした。旅行はもちろんのこと海水浴やその他

レジャー、外食など家族全員がそろって出かけることはなく、夏休みやゴールデンウィークなどの大型連休は夫婦そろって仕事で、宿題の日記にも書けるような思い出を作っておけることができませんでした。子どもたちが大きくなればなるほど職場にはいかなくなくなることが多くなり、寂しい思いをさせているのではないかと感じていましたが、子どもには怖くて聞けずにいきました。さらに、夫婦そろって夜仕事に出なくてはならない日が多くなり、子どもたちだけでお留守番をお願いすることも多くなっていた時期には、夕飯の準備がなかなかできずに、買ってきた総菜やコンビニのお弁当になつてしまつことも多々あり、飲食店に勤めていて、家族のご飯を用意できないことでよく食育分野で親としての努めを果たせたのかどうか不安になることがあります。このように親としては失格だらけで常にもがきながら子育てをしてきたように思います。

ある時期私は従業員さんとの摩擦により人間関係に悩んでいた事がありました。その時娘から一通のLINEをもらいました。「時には厳しくすることも必要だよ」。その一言で一気に救われた自分がいました。もちろん子どもにもその話をしたことはありません。子どもは子どもで親をしつかりと見ていて、何かを感じていたのでしょうか。その娘の言葉に、一人前に物事を考え行動できるように、やさしい子に成長してくれていたのでは。

子どもは親の背中を見て育つという言葉があります。人と人が接するときどうしているか。話し手の話をよく聞いているのか。人との約束はちゃんと果たしているか。守れなかったときしつかり謝っているか。そんな親の姿をしつかり見ている、自ら成長しているのです。だから大切なことは、その場面、場面で親がどういう生き方しているかであると思います。だからこそ、私たちは普段の振る舞いに責任を持ち、考え行動していく必要があります。つまり子どもからも成長させられているのです。私がここに書いたことは全てには当てはまることではないと思いますが、子育ての正解を決めるのは、子ども自身の成長した姿そのものなのかもしれません。子育ての中盤に入りまだ正解は出ていませんが、子どもと共にこれからも成長していきたいと思えます。

## 子どもの伸びしろ

ばら野学園那珂市立第一中学校 保護者  
根本隆弘

私には中学1年の長男、小学5年の次男の2人息子がいます。今日私は私と子どもたちとの日々の奮闘生活についてお話ししたいと思います。

うちの子どもたちは小さい頃から何事もチャレンジ精神旺盛で、わんぱくで活発な男の子です。

中学1年の長男は小学2年から大好きなサッカーを始め、中学の部活動でもサッカーに日々励んでいます。小学5年の次男も同様に、小学2年からバスケットボール少年団で大好きなバスケットを楽しみながら頑張っています。そんな2人のことで、私には悩みがあります。それは自主練をしない子どもたちなのです。オフの日は「練習しないの?」と言ってもやりません。(お世辞にも)なかなか上達せず、後から入団してくる子に抜かれていきます。私の子どもの頃は、大好きなバスケットを外が暗くなるまで友達と練習したり、家の中でもボー

ルを手放さなかつたりしたことを思い出します。なんで私の子どもはゲームばかりに依存しているのかな。と何度も考え込んでしまいました。同じような心境の保護者の方々も多いと思います。

「親が変われば、子どもも変わる」という今回のテーマについて、目の前のことに一生懸命取り組み、子どもたちもつとスポーツや勉強に向き合えるようにするにはどうすれば良いか考えてみました。

親が変われば……。私は、昨年の健康診断で記録的な体重を叩き出しました。日々の仕事、育児、家事、親父をこなし、ストレスの爆発で大好きなお酒、食事など暴飲暴食の(覚醒)状態、それはそれは不摂生の塊でした。

このままではダメだ!と自分自身に喝を入れ、初の肉体改造を決心しました。私は、やると決めたならやるストイック精神です。ありとあらゆる本、インターネットなどを駆使し、日々のトレーニングに加え、サプリメントを欠かさず摂取してみました。

ある日、子どもたちは「身体ゴツくなつてきてない?お腹も凹んで腹筋出てる!」と言ってくれました。私

の変化に感じてくれていることを知り、「一緒にやってみる?」と誘ってみました。

「やってみようかな」と、素直にトレーニングを一緒に始めてくれました。それからは、私自身のトレーニングを含め、自宅でのサッカー、バスケの練習に加え体幹トレーニング、筋力トレーニングを一緒に始めてみました。

N、sジム（自宅筋トレ器具）で子どもたちとコミュニケーションを取りながらトレーニングができるなんてとても楽しく、嬉しい気持ちになりました。

その結果、長男はもやし体型が筋肉質に、次男はぼつちやり体型の身体が締り、二人とも体付きだけでなく、顔付きまで変わってきました。

長男は、「前より走れるようになった。キック力が増した。センターリングを上げられるようになった。」と楽しく話してくれるようになりました。自身念願のサッカー部のレギュラーに選ばれ、新人戦中央地区大会の試合では、20mを超えるロングシュートを決め、チームに貢献し、勝ち上がる事が出来ました。とても自信が湧いてきていると思います。

次男は、「相手をドリブルで抜けた、

リバウンド取れるようになってきた。」と楽しく話してくれるようになりました。

最近では「自宅の庭じゃ強く蹴れないから、公園に連れて行って?」「練習するからデイクエスして?」と自主練の意識、意欲が向上してきたことがすごい成長だと感じました。

また、出来ないこと、上手くいかないことがあった時、感情をむき出しにして悔しがったり、どうしたらいいのか相談してくるようにもなってきました。

子どもは、親が思っている以上に頑張っています。だからこそ努力を認めて、やりたい事が出来た時、上達した時、シュートを決めた時、よく出来たテストが返ってきた時は、めっちゃくちゃに褒めて、伸ばさなければいけません。また、「次も頑張ろう!」と背中を押してあげること、やる気、モチベーションの底上げをします。これからの2人の成長が今以上に楽しみです。

これまでの私を振り返ると、「やりなさい!」「何でやらないの?」という言葉だけで、一緒に付き合っただけでいかなかったことを思うと、とても悔やまれます。親が変われば...

これが、子どもたちの変わるきっかけなのだと思いました。

これから中学生、高校生とどんどん成長していくにつれ、思春期を経験し、(会話などの)コミュニケーションが減っていくかもしれません。

「伸びしろ」だらけの子どもたちです。今のうちから、子どもたちとどう接して、成長させていくかで子どもの将来が決まってくると感じます。

私たちが子どもたちにとって人生は一度きりです。今後、社会的に独り立ちするまで育てる苦労は並大抵のものではないでしょう。「あの時こうしていればよかった」と後悔しないよう、今できることを親として全力ですることが大切だと考えます。

子どもたちが笑顔で、伸びやかに夢に向かって成長していくことをこれからも見守っていきたいと思っています。



### 子どもは親をよく見ている

茨城県立水戸農業高等学校 保護者

原 泰三

私には5人の子どもがいます。皆さまにお伝えする様な「私の子育て論」的な物が、ありません。

ただ、子どもたちが生活に不自由なく暮らせるように、仕事を頑張ってきました。

社畜とは言いませんが、好きな仕事をしていたため、育児に関しては、ほぼ妻に任せていました。

ただ、学校の行事(運動会、発表会など)には必ず参加してきました。その関係でしょうか、幼稚園、小学校、中学校、高校とPTA役員をさせていたたくことになりました。私の両親、祖父も世話役が好きで、PTAはもちろん町内会の世話役をさせていたっていました。

親が役員をしていることに私は特にいやでもなく、自慢でもありませんでした。

役員、世話役がいやであれば、引き受けなければいいことだし、楽し

そうに活動していましたので、よかつたのだと思います。

私自身も親の行動を見ていて、役員、世話役を引き受けたのだと思います。

さて、「子どもは親をよく見ている」で2つの話をしたいと思います。本当は、子どもは大人の真似をする話なのですが、子育て中の皆さんで一番身近なのは私たち「親」なので、大人を親に置き換えてください。

現在、息子の通学で車を使用して送迎をしています。車窓から「歩きスマホ」「自転車に乗りながらのスマホ運転」をよく目にします。

さすがに車の「スマホ運転」は少なくりましたが、たまに目にすることがあります。

これが危険であることは、我々、大人は、誰でも判ることでしょう。一番心配なのは、大人のこの行動が近くにいる子どもが当たり前と思うことです。親がしているので、自分には悪くないと感じるのです。

私の前職から面白いことを紹介します。

私は以前、鉄道関係の仕事をしてきた関係から、電車に乗ることが多くありました。

電車内のスマホが当たり前になった現在ではよく目にするのですが、車両の両側シートにはほぼ全員が頭を垂れてスマホの操作している人が座っている、その間を歩いて車内を移動する光景を想像してください。たまたに通学中の小学生が正面を向いて座っています。

すごく異様な光景とは思いませんか。

いまだに、ホームでの「歩きスマホ」で人と衝突トラブル、ホームからの落下事故が発生しています。

親がするから、子どももする。もし、自分自身が「歩きスマホ」「スマホ運転」をしているのであれば、直ちにやめましょう。子どもにも注意してください。

2つ目は、親子のある行動です。私は現在、公共施設の管理の仕事

をさせていただいています。ある日、運動を終えた子どもが履いていたスリッパを使用済みスリッパ箱に蹴り入れたので、あわてて注意をしました。その子どもはムツとした顔で、そのまま出ていきました。

その後、その子どもの親が同じことをしましたので、当然、注意はしましたが、「この親にして、この子あり」と思いました。

同じ日に、1歳半くらいの子どもを連れ親子が退館時、お母さんが脱いだスリッパを揃えて、使用済みのスリッパ箱に入れました。

お子さんは、お母さんを真似てきちんと脱いだ後、スリッパ入れに入れました。

その時、お母さんが「キチンと入れた」ことを誉めていらつしゃいました。

お子さんは嬉しそうに微笑みを返していました。親が見本を見せ、子どもが出来たら誉める。育児の当たり前の行動と思えました。

振り返ると、自分は子どもたちに対して、何かを出来た時に誉めていたかなと反省する一瞬でした。

「ほめて育てる」「ほめられて育つ」親が見本にならないといけない事だと思えます。

今後、孫が生まれた時には、褒めちぎりの甘々おじいさんになって、育てていきたいと思えます。





# 「家庭の日」図画・作文発表会 並びに表彰式典

令和4年12月10日  
於 市総合センターらぼーる

茨城県青少年育成協会では、明るく楽しい家庭づくり県民運動の一環として「家庭の日」を普及させるため、絵画・ポスターコンクールを実施しています。  
青少年育成那珂市民会議では、この趣旨をさらに浸透させるため、コンクールに作文の部を加えると共

に、毎年、作品展示・作文発表会・表彰式典を実施しています。  
今年度は、市内の小中学校から図画493点、作文790点の応募がありました。紙面では、図画・作文とも金賞を受賞した作品のみ紹介させていただきます。

## おたけい

青逢学園 那珂市立横堀小学校 一年

おたか 大高 志乃

しちがつのにちようびに、かぞくみんなでうどんをつくりました。

まずはじめに、しおみずとうどんをませて、こねました。べたべたしきもちわるかったけれど、だんだんまとまっていきました。ビニールのふくろにいれて、わたしとおとうとのさくでふみました。わたしが、

「コネルとコネル、コネルとコネル、コネルとうどんをこねようぞ。」とかげごえをかけると、さくもまねしました。ふんだかんじは、マシユマロにのったようできもちよかったです。うどんのもとをふくろにいれて、ねかせました。

ねかせたあと、うどんのもとをももういつかいふみました。こんどもかけごえをかけました。かけごえをかけるとおいしくなりそうだからです。またうどんのもとをねかせました。

つぎは、つくえにふくろをして、うどんのもとをめんぼうでのばしま

した。もちもちしていて、のばすとすぐにもどってしまいます。おとうさんとおかあさんものばしました。

うどんのもとをたたんで、おかあさんとわたしできりました。ゆつくりきりました。

「わりばしぐらいのふとさにきるんだよ。」と、おとうさんがいいました。でも、なかなかほそくきれませんでした。

おおきなおなべにおゆをたくさんわかして、ばあちゃんがきったうどんをゆでました。おなべのなかで、うどんがたのしそうにおどっていました。ゆであがったうどんをざるにあげてみずであらいました。ざるのなかのうどんはしんじゅみたいにつるつるしていました。

できあがったうどんをみんなでたべました。

「おみせのうどんみたいで、おいしいね。」  
と、じいちゃんがいいました。わたしもそうおもいました。みんなできつくて、みんなでたべるうどんはとってもおいしいので、またつくりたいです。

おとうさんが生まれました

青遙学園 那珂市立横堀小学校 二年

小澤 莉音

わたしには三さい年上の姉と、八さい年下のおとうとがいます。おとうとはまだ生まれたばかりで、今二カ月です。

おとうとが生まれる前、おとうさんが、

「もうすぐお姉ちゃんになるんだよ。」

と言いました。わたしは

「いやだなあ。赤ちゃんいらぬい。」

とこたえました。どうやってお姉ちゃんになるのかわからなかったし、おとうさんとおかあさんを赤ちゃんにとられてしまう気がしたからです。

「お姉ちゃんになれるの?」

「お姉ちゃんだからがんばりなさい。」

と言われるのが、とてもいやでした。

おとうとが生まれておかあさんと

びょういんからかえってきた日、はじめて見たおとうとはすごく小さくて、

足のゆびはエノキタケにっていました。

くびもぐらぐらで、おれてしまいそ

うでこわかったです。おかあさんに

「だっこしてみる?」

と言われたけど、

「ちよと大きくなつてからにする。」

とこたえました。さいしよはかわい

よりも小さすぎてこわいと思ってい

した。

そして二カ月になった今は、まだく

びは少しぐらぐらするけど体がしっ

かりしてきて、わたしでもだっこでき

るようになりました。たまにミルク

をあげたりもします。わたしを目で

おったり、たまにニッコとわらったりも

します。おとうさんとおかあさんに

「お姉ちゃんが大ききみたいだね。」

と言われて、わたしは「お姉ちゃん

になれてるんだな」と思って、とても

うれしかったです。おとうとがかわい

くて大すきになりました。早くそと

でいっしよにブランコにのりたいです。

赤ちゃんがやっぴきたー!

ばら野学園 那珂市立五台小学校 三年

岩崎 風花

お母さんのおなかは、今、はちきれそうなほどパンパンです。おへそは

ぺったんこになってしまい、毎日、あつ

いとかくるしいとか言っています。な

ぜかというと、おなかに赤ちゃんがい

て、もうすぐ生まれるからです。お

父さんは、赤ちゃん用品を買いこんで

わたしが赤ちゃんのときのアルバムを

見返したり、お母さんのおなかをさ

わつたりしています。おじいちゃん

おばあちゃんも、体調を心ばいして、

家事を手つだつてくれています。わた

しはというと、「赤ちゃんつどのぐら

いの大ききなのかな。」とか、「生ま

れたらお世話を手つだおう。」とか、

「大きくなつたら何をして遊ぼうか

な。」と考えています。

予定日が近づいてきて、お父さん

とお母さんとわたしで、名前を考え

たり、お世話の仕方を調べたり、赤

ちゃんのへやを作つたり、カウントダウ

ンカレンダーを作つたりと、大いそが

しです。そして、カウントダウンカレ

ンダーのカウントダウンがすすんでい

き、ついにお母さんが入いんしてしま

いました。さいしよはお母さんがいな

くてさびしかったけど、へやのそうじ

やお母さんにたのまれたことをした

り、お父さんと遊びに行つたりしてい

ると、どんどん時間がすぎていきま

した。

そして、いよいよたいいんの日がき

きました。わたしとお父さんでびょうい

んにむかえにいくと、お母さんが赤

ちゃんをだいて出てきました。赤ちゃん

は、とつても小さくてとつてもかわ

いかったです。お母さん、おつかれさ

ま!家に帰つてきて、おいわいのかざ

りつけを見て、お母さんは、「ありが

とう。」と言つてなっています。お父

さんは、赤ちゃんをだっこして、「小

さい!かわいい!。」とメロメロです。

わたしは、さつそくオムツがえやミル

ク作りの練習をはじめました。どん

どん上手になつて、お姉ちゃんが何で

もやつてあげるからね。岩崎家へよう

こそ!

おまの祖の家族写真

わかすぎ学園 那珂市立荻谷東小学校 四年

高橋 蒼真

ぼくたち家族は、毎年夏休みにひまわり畑の前で写真を撮ります。ぼくが生まれて初めての夏も、お父さんがぼくを高く持ち上げてくれて空を飛んいであるような写真がとれまし

た。それから毎年同じ写真をとりに  
づけて、今年ぼくは九さいになりま  
した。いつもと同じようにお父さん  
はぼくを持ち上げようと力を入れ  
ると、わきの下がいたくなってしま  
い、ぼくがおもわず、

「いたい、おろしてー。」

とさげびました。なので今年からは  
持ち上げず写真をとることにしまし  
た。お父さんは、

「大きくなって、重くなったな。」

と言っていました。

写真をとった後、ひまわりフェス  
ティバルへ行きました。コロナのえい  
きようで二年ぶりのかいさいだったの  
で、ぼくはかいさいされることをしっ  
てから、ワクワクしていました。

まずはじめにやったのはスーパード  
ルすくいです。お店の人にポイをも  
らい、水面にういているスーパード  
ルをねらって、ポイを横からやぶれな  
いようにそっといれました。しんちよ  
うにスーパードルがのったポイを持  
ち上げ、全部で六ことることができま  
した。たくさんとれたので、ぼくは  
一才半になる弟に見せると、

「ピカピカ。」

と言っていました。

それから、かき氷やチョコバナナを

食べ、最後に花火を見ました。赤  
や緑色の色とりどりの花火が空から  
ふつてきそうなくらい近くでみれて、  
とてもきれいで楽しかったです。

来年の夏休みも、その次の夏休み  
も、またひまわり畑で写真をと  
り、ぼくがいつかお父さんのせをぬかせる  
ぐらいに大きくなって、家族で写真  
をとりたいです。

## 夢のよきな時間

わかすぎ学園 那珂市立菅谷東小学校 五年

高嶋 瑞歩

今年のお正月、二年ぶりにいとこ  
が来ることになり、家族で水族館と  
恐竜博物館を開いた。前に水族館を  
開いて、祖父母とおばを招待したの  
だが、その後はコロナかで開館できず  
にいたからだ。

まず、何が必要か考えた。展示  
するのは、ペーパークラフトで作った魚  
二十二種類。弟が恐竜のクラフト本  
をいくつか作っていたので、残りもオー  
ブンまでに作ることにした。それか  
ら、チケットや看板、チラシ、売店の

お土産など、あれもこれも作らなきゃ  
と思うと、何か大きなことを自分で  
企画している感じがしてとてもわか  
くした。

オープン当日の朝、水族館は、窓  
を大水そうに見立てて魚をテグスでつ  
るし、浅い海と深い海に分けて魚の  
住んでいる所を再現した。博物館は、  
弟が恐竜を時代ごとに分けて、二つ  
のテーブルに並べた。いとこと遊んで  
お昼にもどつてくると、恐竜のテー  
ブルに木や海草などがあり、恐竜の巣  
にはたまごが置いてあってジオラマの  
ようになっていた。父と母が、新聞  
紙や折り紙で急いで作ってくれたのだ。  
部屋の高い所には、いん石がぶらさが  
っていて、本物の博物館のようになって  
いた。

午後一時、オープンすると、いとこ  
の家族おば、祖父母が次々と来館し  
た。みんなカメラを手に、一つ一つじ  
くり見ていた。私は水族館、弟は博  
物館のスタッフとして展示物の解説を  
した。私は最近魚の図かんを見てい  
なかつたので、きちんと説明できるか  
などドキドキしていた。でも質問に  
答えていると、みんなに、

「よく知っているね。」

と言われて、私は魚博士になった気

分だった。

この日の水族館は、あつというまで  
夢のような時間だった。みんなを楽  
しませようと思って企画したが、コロ  
ナかですつと水族館に行けなかつた自  
分が、最高に楽しめた。

## 東日本大震災とぼく

緑桜学園 那珂市立芳野小学校 六年

綿引 孝太郎

ぼくは、東日本大震災の三日後に  
生まれました。当たり前だけれどぼ  
くにはその時の記憶はありません。

三月十日の地震の時、お母さんは  
家の中で、ゆれを体験したそうです。  
「もうだめかもしれない。」

と思ったそうです。命の危険を感じ  
るぐらいの大きな地震だったのだとこ  
わくなりました。だけど、お腹の中  
の子どもはぜつ対に守りたいと強く  
ちかつたと聞き、自分のことよりも  
ぼくを一番に考えてくれて、お母さ  
んは強いなと思いました。

家の中は足のふみ場がないくらい、  
たくさん物がたおれ、ひどい状態に

なつてしまったため、となり町に住んでいるおじいちゃんの家ひなんしたそうです。水道や電気がとまり、暗い中でロウソクの火をともししてすごした日もあったそうです。一番つらかったのは、お風呂にはいれなかったことと言っていました。食べ物もなくなり、大きなお腹をかかえて何時間も配給に並んだ日もあったようです。やはりお母さんは強いです。

何日も不慣れた生活を送る中、三日後の三月十四日の朝ぼくが生まれました。予定よりも一週間早く産まれてしまった、びっくりしたそうです。ぼくが生まれてからの何日間は福島県の原子力発電所のぼく発による放射性物質が、茨城県まで飛んできていたようで、とても不安だったと言っていました。

東日本大震災は今思い出してもとてもこわかった記憶だそうです。でも、大変な時に産まれてきたぼくをととてもたくましいと言ってくれます。お腹の中に居たときも、産まれてきてくれた時も、不安をなくしてくれてお母さんを元気づけてくれたから、名前の漢字の「孝」は親孝行の「孝」にしたと聞きました。

ぼくが今元気にここにいられるのは、

お母さんや家族のおかげなんだと、あらためて感じました。これからたくさん親孝行をしていきたいです。

## 「結」の言葉

青遙学園 那珂市立第二中学校 九年

平山 結菜

この夏休み、人の心は、誰かが一緒にいるだけで温かくなる、ということを知りました。それは、隣にある祖父母の家に雷が落ちたからです。初めは、そんな近くに落ちたことなど全然知りませんでした。しかし、あまりに大きな音に驚いた弟が、祖父母の家の方を見て、真つ暗闇になつて、気が付きました。そのすぐ後、父の携帯電話に祖母から電話が掛かってきました。雷が落ちたことでパニックになつていた祖母とは、話が全く噛み合わず、そのやりとりを聞いていた私は、鼓動が強くなってきました。心配のあまりライトを持って、すぐに駆けつけました。

祖父母の宅に入った瞬間、辺り一面何かが焦げた匂いが漂っていました。

た。真つ暗で、焦げ臭い見知らぬ場所に来てしまったようでした。険しい顔でたずむ祖父母の様子から、とても動揺していることが伝わってきました。いつもの祖父母の顔ではありませんでした。私は、2人が少しでも心が落ち着くように椅子に座らせました。そして、一緒に駆けつけた父と弟、近所にいる叔母の6人で話をし、必死に心を落ち着かせました。修理業者を待つ時間は、一分が一時間のように長く、不安な時間でした。焦げた臭いのする、少し熱い部屋で、全ての窓を開け、テーブルを挟み、とにかくみんなで、雷が落ちたことを笑い話にして長い間おしゃべりしました。私は、笑顔で「こんなこと一生に一度しか経験できないよ」「火事にならなくてほんと良かったよ」と、明るく前向きな話をしました。業者に電話をしたり、必要な道具を持ってきたりしている父の側で私ができるのは、それくらいでした。

しばらくして修理の人が来てくれました。ブレーカーは溶けている部分があり、家電も使えなくなっていることが分かりました。でも、祖父母が暗く不安な気持ちにならないように、私は、ずっと「火事にならなくて良かった」と励まし続けました。修理業者の方がブレーカーを直している様子を、みんな「凄いな」「頼りになるね」と言いながら見ていました。作業が終わり、自宅に帰ろうとしたときには、時計は夜中の十二時を回っていました。

「た」と励まし続けました。修理業者の方がブレーカーを直している様子を、みんな「凄いな」「頼りになるね」と言いながら見ていました。作業が終わり、自宅に帰ろうとしたときには、時計は夜中の十二時を回っていました。

玄関を出ようとしたとき、祖母は、私に「一緒にいてくれて、ありがとう。そばにいてくれただけで安心したよ。」と何度も繰り返し言いました。私は、父や修理業者の方のようには何もできませんでした。しかし、祖父母は何度も何度もお礼を言ってくれました。辛いことがあったとき、嫌なことがあったとき、そばにいてあげることがこんなにも人の心を温かく、そして安心させることができるということを知りました。私は、誰かが困っているとき、たとえ何か特別なことができなくても、一緒にいてあげることが助けになるならば、そうしてあげたいと強く思いました。

「家庭の日」 図画作品  
コンクール  
**金賞受賞作品**



かぞくでうどんづくり  
青逢学園 那珂市立横堀小学校1年  
おおたか しの  
大高 志乃



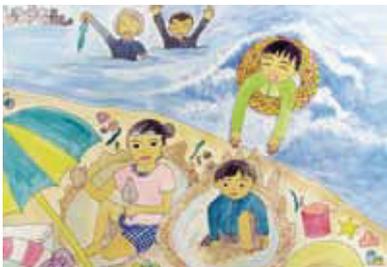
みんなで虫とり  
わかすぎ学園 那珂市立菅谷小学校2年  
ふじさく ぶんじ  
藤咲 文治



家族でじゃがいもほり  
青逢学園 那珂市立横堀小学校3年  
ほりぐち そうた  
堀口 蒼太



あつあつ楽しいBBQ  
ばら野学園 那珂市立菅谷西小学校4年  
たかはし あゆみ  
高橋 歩未



夏の思い出  
わかすぎ学園 那珂市立菅谷小学校5年  
ふじさく もも  
藤咲 もも



夏を収穫  
ばら野学園 那珂市立菅谷西小学校6年  
あぎみ さな  
浅見 紗那



おじいちゃんと収穫  
わかすぎ学園 那珂市立第四中学校9年  
あおい 葵  
関根 葵

「家庭の日」 図画・作文入賞者 (金賞・銀賞・銅賞)

学年	図画の部			作文の部		
	金 賞	銀 賞	銅 賞	金 賞	銀 賞	銅 賞
小1	おおたか しの 大高 志乃	う ち はら めい 宇地原 明波	あおき こな 青木 心那	おおたか しの 大高 志乃	とみおか なな 富岡 那奈	くわばら わか 桑原 和花
小2	ふじさく ぶんじ 藤咲 文治	いしかわ るき 石川 琉輝	きりばら いっせい 桐原 一誠	こざわ りおん 小澤 莉音	たかしま はくと 高嶋 博人	なかしま るか 中島 瑠風
小3	ほりぐち そうた 堀口 蒼太	みやた かさね 宮田 かさね	あくつ ゆめこ 坏 佑芽子	いわさき ふうか 岩崎 風花	おぬき しょうた 小貫 翔大	ばばさき ひな 馬場先 雛
小4	たかはし あゆみ 高橋 歩未	にかいどう だい 二階堂 大智	あかせ ほのか 赤瀬 帆海	たかほし そうま 高橋 蒼真	おわだ えいと 大和田 瑛翔	すずき いっさ 鈴木 一瑛
小5	ふじさく ぶんじ 藤咲 もも	もりた みゆ もりた 心優	おおくら そうま 大蔵 颯真	たかしま みずほ 高嶋 瑞歩	まつい あいこ まつい 愛子	き木な瀬 たすく 木名瀬 たく
小6	あぎみ さな 浅見 紗那	おおつき れみ 大槻 麗心	くろさわ なお 黒澤 奈央	わたひき こうたろう 綿引 孝汰郎	なかじま あやか 中嶋 彩夏	はせがわ ぜん 長谷川 然
中学生	せきね あおい 関根 葵	ほし 実夏 星 実夏	なめかわ ひいろ 滑川 緋彩	ひらやま 結葉 平山 結葉	すずき 愛璃 鈴木 愛璃	てらかど そう 寺門 爽

令和4年度 那珂市「善行青少年表彰」受賞者

氏 名	学校・学年	善行の概要	備考
ぐんじ そうま 軍司 蒼馬 みづせ りん 水落 類 いしうち ゆうじん 石内 悠仁 せきね 徹真 関口 徹真	わかすぎ学園那珂市立 菅谷小学校 5年	登校途中に5年生の児童が定期券の落とし物を拾った。落とし主が困るだろうと4人で相談し定期券を職員室に届けた。職員が、記載されている事項をもとに持ち主に連絡をした。定期券は高校生の物で、その日の夕方学校に取りに来た。	個人生活の 徳行
たかはし みさき 高萩 美咲	ばら野学園那珂市立 菅谷西小学校 3年	母が勤務する介護老人福祉施設の子ども食堂で、料理補助、テーブル拭き、配膳、後片付けなどの手伝いをしている。 子ども食堂には、地域の子どもから大人、高齢者等が来るので、キッズボランティアとして話しかけたり話を聞いたりする活動もしている。	社会福祉
かわかみ まなみ 川上 愛実	わかすぎ学園那珂市立 第四中学校 8年	下校中に泣きながら歩いている菅谷小学校の児童を見つけ、自分からやさしく声を掛けた。その後、自分の母親のもとへ連れていき、小学校に電話をして小学校の先生に引き渡した。	個人生活の 徳行



**もちの木まつりの準備活動を終えて**

六年 宇留野 舞

私の班では、地域の方と交流するためにすごろくをやるうと決めました。私たちは、すごろくのコマやマス目の言葉まで全て手作りをし、来てくれる人たちが楽しんでくれるようがんばりました。そして、この活動を終えて分かった事があります。

それは、先生方が普段、当たり前のようにやっている事の大変さについてです。一、六年生までの分担や役割を一から決める事は、初めてでした。人数を合わせたり、組み合わせを考えたりにして、より良い分担を作る事がとても大変だと感じました。今年、「もちの木まつり」という楽しい会を開くことができてよかったです。長い間、コロナの影響でできなかった事が、今年、地域の方や先生方、全校児童で仲を深める事ができて、本当にうれしい気持ちになりました。これからも、額田小学

校という場所を大切にしていきたいと心から思っています。

**もちの木まつりを通して**

六年 船橋 咲良

私は、もちの木まつりを通して、感じた事があります。

それは、地域の方への感謝の気持ちです。今回のもちの木まつりは、毎日私たちの登下校を見守ってくくださる地域の方々に、感謝の気持ちを伝えるために、各縦割り班毎に作成した屋台を出し、地域の方と交流しました。

低学年から地域の方まで楽しめるように、どんな屋台にするかを一生けん命考えて、話し合いをして作成しました。実際に地域の方々と屋台で交流した時、地域の方に「すごいね。」「がんばったね。」と言ってもらいました。低学年から地域の方までみんなが笑顔で交流しているのを見た時、とてもうれしかったです。

これから、地域の方々に感謝の気持ちをもって、安全に登下校したいと思います。



私たちの瓜連地区には、常陸二の宮・静神社の森にすんでいたという『四匹のきつね』という民話があります。

その昔、多くのきつねは、畑にいたずらをするなど、村人に迷惑をかけていました。ある時、四匹の兄弟が集まって、「私らには、人間のもっていない神通力がある。その力で人々を助けよう」と知恵を出し合いました。長男ぎつねは「私は、この久慈川と那珂川のある地元を守る」次男・三男・四男には、それぞれ他の地域の人々のために役立つようにお願いしました。すると、弟たちは「私は野を守る」、「私は山を守る」、「私は海を守る」と言って各地域へ向かいました。それぞれの所では、今までの問題を改善し、それらに満足せず、何年も先の将来のことも考えて活躍しました。その結果、自分たちの生まれ育った所だけでなく、まわりの広い地域が発展し、そこで暮らす人々の生活も豊かになりました。というお話です。

この民話から、物事を冷静に自分の目で見る。自分の得意とすることを知っておく。人々の為に役立つよ



うに進んで行動する。現状に満足せず、さらに上の目標を目指す。相手をお願いするときは、協力してもらえるような言葉づかいをすることの大切さなどを教えられたように思います。

青少年の皆さんには、健康管理に気をつけて地域の活動にも積極的に参加するなど、様々なことにチャレンジしてほしいと願っております。

**編集後記**

子どもたちのなりたい自分の作文、保護者の方々の子育て体験記、小学生の「家庭の日」の作文、子どもたちの地域交流などから、皆さんの心豊かで明るい未来を感じました。

暗いニュースばかりの昨今、今この瞬間を、精一杯自分を出し切って生きている。「いつもの生活が幸せなことであり、何ものにも代えがたい最大の幸せ」であることにも気づかされました。

忙しい中、原稿をお寄せいただいた皆様にお礼申し上げます。

広報部会長 袴塚 耕二